

會代表九州本部相談役陳起薰、嘉穂支部長柳在鳳、鞍手支部長重碩元の三名は八月二十一日午前十時之が理由を訊し圓滿解決を圖るべく飯塚市芳雄驛通りに設置せる鮮人争議團本部に帶同し鮮人幹部に會見を申込たるも絶体に拒絶し更に組合指導者幹部に其理由を質問したるも答辨の要なしと頑強に反對し理由を鮮明にせず、察するに彼等争議團指導者幹部は奸言を以て麻生系鮮人稼働者を誘惑煽動し以て彼等の常套手段たる一部指導者の私腹を肥し筑豊鮮人一萬の稼働者を餓死せしめんとする人道上許すべからざる時代を知らざる逆輩なりと斷言して憚らない。本會の常に憂慮する事は鮮人將來の發達と幸福の増進である然るに送炭制限の最不景氣に於て斯る勞資の闘争は双方の損失甚大のみならず殊に筑豊に於ける唯一の鮮人勞働都市に於ては最も穩健なる鮮人を送り以て相

互の福利を企圖せねばならぬ。此の意味に於て理由を鮮明にし相互の圓滿を圖るべく會見したるも彼等は頑迷にして此の意味を解せず實に言語同斷の次第である。茲に於て本會は筑豊の各支部に飛激して飽迄穩健なる筑豊鮮人一致團結して争議を應し以て惡終思想を排撃本會の使命實現に邁進せんことを聲明す

昭和七年八月二十三日

相愛會嘉穂鞍手支部

責任者飯塚市芳雄

柳在

鳳